

施策 2 ごみを減量・資源化します

1 廃棄物の減量と資源化

循環型社会の実現に向け、「ごみ減量・資源化指針」に基づき、ごみ焼却量がピークであった平成9年度の15.6万tから1/3以上の削減となる「ごみ焼却量10万t以下」を目標に、市民運動を展開し、ごみの減量や資源循環に取り組んでいます。

◆各指標の推進状況

指標名	①ごみの焼却量					
指標の見方	選別、粉碎処理後の可燃物（し尿処理後の残さの焼却等を含む）					
基準	122,831 t（令和3年度）			目標	100,000 t（令和7年度）	
推進状況	令和5年度 111,970 t	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	達成
今後の対応	ごみの焼却量は順調に減少しており、今後も資源ごみの分別や回収、再利用などの取り組みを推進し、ごみの減量を図る。					

・ごみの焼却量（推移）

区分／年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ごみ焼却量	122,831 t	114,394 t	111,970 t
人口※	402,965 人	401,294 人	399,492 人
1人1日あたりのごみ焼却量	835 g/人・日	781 g/人・日	766 g/人・日
中核市順位	47/62 市	34/62 市	-

※各年度末時点

指標名	②紙類の年間回収量					
指標の見方	資源分別回収等（市内の民間の古紙等回収ステーション含む）での回収量					
基準	14,927 t（令和3年度推計値）			目標	18,034 t（令和7年度）	
推進状況	令和5年度 14,165 t	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	達成
今後の対応	家庭系普通ごみに含まれる紙ごみの多くを占める雑がみの回収促進のため、講座やイベント等を通じた啓発や回収機会・拠点の拡充に取り組む。					

②紙類の年間回収量（内訳・推移）

区分／年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
資源分別回収 （うち古紙回収ボックス）	4,354 t （466 t）	4,008 t （501 t）	3,481 t （465 t）
柳津資源ステーション	104 t	73 t	58 t
民間の古紙等回収 ステーション	10,470 t	11,350 t	10,626 t
合計	14,928 t※	15,431 t	14,165 t

※実績値

指 標 名	③生ごみ減量に取り組む世帯数					
指標の見方	ダンボールコンポストと電気式生ごみ処理機の補助世帯数					
基 準	430 世帯（令和 3 年度） ※ダンボールコンポストのみ			目 標	1,000 世帯（令和 9 年度）	
推進状況	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	達成
	619 世帯					
今後の対応	講座やイベント等を通じて、生ごみの減量方法を周知するとともに、補助制度を展開し、市民への普及啓発に取り組む。					

・生ごみ減量に取り組む世帯数（内訳・推移）

補助対象／年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
ダンボールコンポスト	430 世帯	418 世帯	385 世帯
電気式生ごみ処理機※ （ ）は各年度の補助件数	—	64 世帯 (64)	234 世帯 (170)
合計	430 世帯	482 世帯	619 世帯

※耐用年数が 6 年程度で補助は 1 世帯に 1 回限りのため、世帯数は累計の値で算出する

指 標 名	④プラスチック製容器包装の資源化率					
指標の見方	資源化処理量/年間のプラスチック製容器包装収集量					
基 準	79.2%（令和 4 年度上半期）			目 標	85%（令和 9 年度）	
推進状況	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	達成
	74.3%					
今後の対応	講座やイベント、広報紙やホームページ等を活用し、プラスチック製容器包装の適切な排出方法について啓発する。					

・プラスチック製容器包装の資源化率（内訳・推移）

区分／年度	令和 4 年度	令和 5 年度
プラスチック製容器包装 収集量	4,793 t	4,533 t
資源化処理量	3,815 t	3,370 t
資源化率	79.6%	74.3%

◆関連する主な事業等

・ごみ減量・資源化指針の推進

「ごみ減量・資源化指針」の目標達成に向けて、具体的な取り組みを示す 6 つの作戦を掲げ、市民、事業者、市が一体となった取り組みを進めています。また、作戦の進捗状況を管理するため、「ごみ減量・資源化指針アクションプラン」を作成しています。

- 作戦 1 多様な資源ごみ回収を促進する
- 作戦 2 紙ごみを減らす
- 作戦 3 生ごみを減らす
- 作戦 4 プラスチックごみを減らす
- 作戦 5 事業系ごみを減らす
- 作戦 6 ごみ処理有料化制度の導入を検討する

・資源分別回収事業

身近なりサイクル活動として、昭和 58 年度から自治会連合会を中心に資源の集団回収を実施しています。また、回収業者から支払われる売却金のほかに、回収された資源の量に応じて、市から奨励金を交付しています。

＜資源分別回収による回収量＞

回収品目／年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
紙類（新聞、チラシ、雑誌、段ボール、紙バック、雑がみ）	4,354 t	4,008 t	3,481 t
古着（古着、下着、タオル、シーツ等）	331 t	267 t	219 t
カン・フライパン類（アルミカン、スチールカン、缶詰カン、やかん等）	108 t	89 t	81 t
合計	4,793 t	4,364 t	3,781 t

・古紙回収用ボックス設置事業

地域の資源分別回収量の増加と利用者の利便性向上を図ることを目的に、地元管理による紙類回収拠点を、平成 24 年度から公有地にある公民館等に、令和 3 年度からは民有地にも設置し、令和 5 年度末までに 32 地域 39 か所に設置しています。



＜回収量古紙回収用ボックス設置地域（設置順）＞

木田、芥見東、厚見、芥見南^{※1}、加納西、白山、本荘、日置江、柳津町^{※1}、三里、長森北^{※2}、梅林、加納東、合渡、島、七郷、城西、日野^{※1}、長森南^{※1}、芥見^{※1}、茜部、岩野田北、早田、長良西^{※1}、西郷^{※1}、本郷、藍川、長森東、岩、黒野、三輪北、三輪南

※1 2 か所設置

※2 令和 5 年度末から休止中

・ダンボールコンポストの普及促進

生ごみの減量・資源化を推進するため、ダンボール箱で手軽に生ごみを堆肥化できるダンボールコンポストの普及を進めています。毎月定期的に、市内各所でダンボールコンポスト講座を開催するとともに、動画「おうちでダンボールコンポスト」を配信し、実践方法を紹介しています。

＜ダンボールコンポスト講座の開催回数＞

講座内容／年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
導入講座 (専門講師から使用方法を学ぶ)	33回	31回	29回
アフター講座 (再度、使用方法を確認)	3回	4回	3回
合計	36回	35回	32回

・ダンボールコンポスト普及促進補助金

家庭の生ごみを減量するため、ダンボールコンポストに必要なダンボール箱と基材の購入費用の一部を補助しています。

＜ダンボールコンポスト普及促進補助金の補助数＞

補助対象／年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ダンボール箱	729個	660個	584個
基材	1,053個	1,040個	951個

※補助額はダンボール箱 170 円/箱、基材 470 円/個

・生ごみ地域循環事業

ダンボールコンポストで作った堆肥を家庭で使いきれない場合、市が余剰堆肥を回収し、学校の花壇などで活用しています。令和5年度は、回収した堆肥を、加納小学校、岩小学校、長良西小学校へ配布し、学校の花壇や畑などでの花植えや野菜作りに活用しました。

・電気式生ごみ処理機購入費補助金

生ごみの減量・資源化を促進することを目的に、家庭用電気式生ごみ処理機の購入費用の一部を補助しています。

＜電気式生ごみ処理機購入費補助金の交付実績＞

区分／年度	令和4年度	令和5年度
申請件数	64件	170件
補助金額 (予算額)	1,021,650円 (100万円)	3,003,550円 (300万円)

※補助額は購入金額の1/2相当額(上限2万円)

・ 3・3 プロジェクト

食材を“使いキリ”、出された料理を“食べキリ”、生ごみを出すときは“水キリ”の「3キリ」と、ごみの発生を減らす「Reduce」、くりかえし使う「Reuse」、資源として再生利用する「Recycle」を考えて、買い物・調理・片づけを行う「3 R クッキング」をあわせて行い、生ごみを減量する取り組みです。3 R クッキング講座やごみ減量・資源化講座などの出前講座などを通して普及啓発を行っています。

また、食品ロスの削減に取り組む市内の店舗及び企業等の事業所等を「3・3 プロジェクト 岐阜市食べキリ協力店・協力企業」として登録しています。令和5年度末の登録事業所数は191店舗でした。

・ シビック・アクション号による施設見学

ごみ処理施設やリサイクル施設の見学を希望する自治会や市民団体等に対して、バス手配や見学受け入れ施設との調整を行い、施設見学を支援しています。

＜シビック・アクション号の利用数＞

区分／年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用団体数	(新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)	14 団体	14 団体
利用者数		359 人	329 人

・ ごみ減量フォーラムの開催

ごみ減量に関する市民意識を高め、市民運動を盛り上げていくため、毎年度開催しています。フォーラムでは、ごみ減量・資源化についての講演のほか、各地域の6～8月の資源分別回収での雑がみ回収量を競う「雑がみ集めてグランプリ」の表彰式や、市内小中学生によるごみ減量に関するポスターの入賞作品の表彰などを行っています。

トピックス

メルカリエコボックスを配布

岐阜市は、株式会社メルカリと地域課題解決に向けた包括連携協定を結んでおり、令和5年度に、市内の3大学やツナグテで「メルカリエコボックス」の配布を行いました。

「メルカリエコボックス」は、不要になったもので、捨てるにはもったいないものを一時保管しておく箱です。保管したものを適時見直し、必要としている人に譲ったり、売却することで、すぐ捨てるのではなく資源を大切に利用する循環型社会の実現につなげます。

